

第 65 回ミラノ展 (EICMA)

今年で 65 回目となるミラノ展 (65th International Bicycle and Motorcycle Exhibition) が、2007 年 11 月 6 日～11 日の 6 日間、ミラノ国際見本市会場で開催された。2003 年から自転車とオートバイは別開催となり、自転車単独で 4 回開催したが、今年は自転車展 (Bici) とオートバイ展 (Moto) の合同開催に戻った。

○主催： EICMA (Esposizione Internazionale Ciclo e Motociclo)

○会場： FIERA MIRANO (ミラノ国際見本市会場)

○会期： Bici 2007 年 11 月 8 日 (火)～11 日 (日) 4 日間開催

Moto 2007 年 11 月 6 日 (火)～11 日 (日) 6 日間開催

○開催時間： 10:00～18:30 (9 日のみ 22:00 終了)

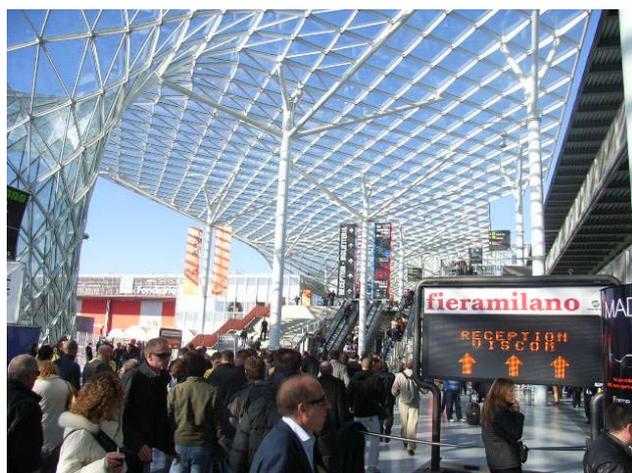
○使用ホール： Bici 5, 7 ホール 展示面積 10,800 m²

Moto 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14 及び 18 ホール 展示面積 68,800 m²

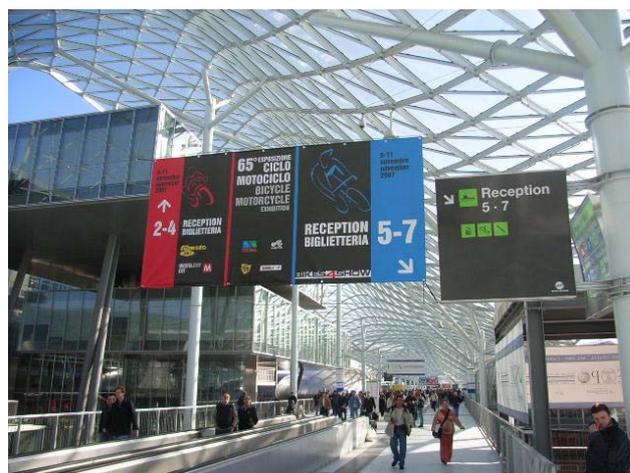
○入場者数： 535,000 人 (前年自転車展 80,000 人)

○出展者数： Bici 210 社 452 ブランド (前年自転車展 270 社 667 ブランド)

Moto 760 社



フィエラ入場口の様子



自転車展 (Bici) ホール 5, 7 入口

展示会概要

自転車展のホール 5、7 は、昨年のホール 22、24 と場所は違うが面積はほぼ同じである。しかし、今年はホール 7 の約半分は「BIKES4SHOW」というイベントのトラックコースが占めており、自転車関連の出展面積は実質的に昨年より 4 分の 1 減少している。昨年も 3 ホールから 2 ホールになったところであり、自転車関連の出展規模は年々縮小している。

出展者は地元イタリアメーカーのピアンキ、コルナゴ、デ・ローザやピナレロなどの各国展示会でも馴染み深いブランドのほか、モーゼルやフォンドリエスト、オルモ、パークプリや近年成長著しいクオータなどである。展示車種は、ロードレーサーが主でついで MTB であるが、トラックレーサーをラインナップに加えているメーカーも多い。部品関連ではカンパニ

ヨーロを始め、タイヤのビットリア、チネリやコロンバスを擁する GRUPPO グループ、イタリアの主要生産品目であるサドルのセレ・ロイヤルやセレ・イタリアなどである。日本製品はシマノとナショナルタイヤが現地代理店により出展されていた。更にアクセサリーやウエア類、また電動アシスト車や電動アシスト・ユニットなどもみられ、展示面積は減少傾向にあるとはいえ出展物は実に多様であった。訪れた 11 月 8 日は自転車展のビジネスデーに相当したが、先に開会した Moto が目当てのユーザーも加わり、Bici の会場も熱気に包まれ Moto との合同による大幅な来場者数増加に主催者は満足げな様子であった。因みにビジネス客の来場者数は Bici と Moto 合わせて 60,000 名であった。



フォンドリエスト



パークプリ

チタンフレーム

展示台数は各社とも 5、6 台程度と小規模ではあるが、チタンフレームのスポーツ車をメインに展示しているメーカーがいくつかあった。チタンはクロモリなどに比べ振動吸収性に優れ軽量で錆びにくいなどの利点により新たな素材として注目され、かつて世界中のメーカーがチタンフレーム製作に乗り出した。しかし、チタンはクロモリやアルミに比べて溶接などの加工が難しく、その分コストもかかるため次第に廃れていった。今でもデ・ローザやアメリカのライトスピードなど、チタンフレームのスポーツ車にこだわるメーカーもあるが、現在のカーボンやアルミの台頭から見れば小数である。そのような世界的な情勢の中で、イタリアのハンドメイドに近い中小メーカーがチタンフレーム車を出展している姿に、最近流行のカーボンモノコックではなく、あくまでも金属パイプにこだわるフレームビルダーの職人気質や心意気を感じた。



大手メーカーのチタンフレーム車（左；ピアンキ、右；デ・ローザ）



チタンフレームメーカー（nevi）



チタンフレームメーカー（CRISP）と特徴ある MTB フレーム



チタンフレーム車 (OVAM)

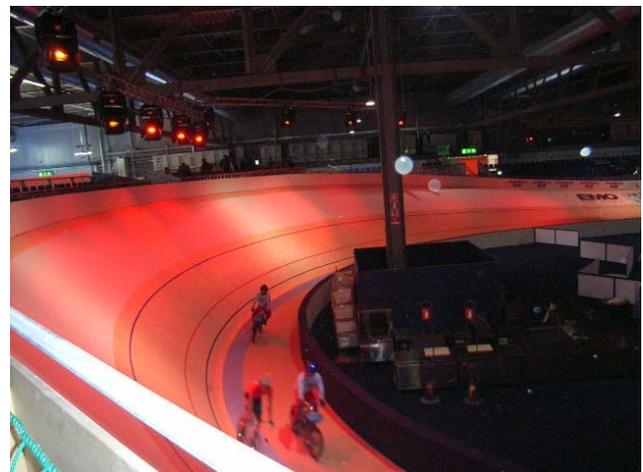


チタン・カーボン車 (PADUANO RACING)

新しい試み BIKES4SHOW

今年から新たな試みとして展示会場内にトラックを設け、2006年世界選手権ロードレース・チャンピオンのパオロ・ベッティーニを始めとする有力選手28名を招集し、一周240mの木製トラック「Velodrome」でレースを行った。集客イベントとして展示会場にトラックを設ける考えは大胆な発想である。主催者は、この成功を受け来年もBIKES4SHOWを開催したい意向である。

このイベントはマスコミからも注目を浴び、EICMAへの取材陣は4,638名を数え、そのうち1,335名は国外からの取材者であった。



BIKES4SHOWの様子 (ホール7)



ホール5の様子



空きスペース (ホール5)

今後の展望

欧州では未だ方向性を模索中のEICMAではあるが、新たなる戦略も打ち出している。EICMAはアジアとりわけ東南アジア市場に注目し、来年4月中旬にシンガポールで「BikeAsia 2008」という二輪車展示会を50%出資の会社を設立し開催予定である。この展示会は東南アジア市場のユーザー向けのショーである。EICMAではこの地域の自転車とオートバイの需要拡大の可能性に期待している。

来年、Motoは2008年11月4日～9日の予定と公表されているが、Biciの開催日時は未だ公表されていない。EICMAでは今年の状態を踏まえ、自転車展の開催時期について慎重に検討中である。

以 上

(デュッセルドルフ事務所)